



赤須賀漁協青壮年部研究会

～干潟の豊かな恵みを未来に残すための取組み～

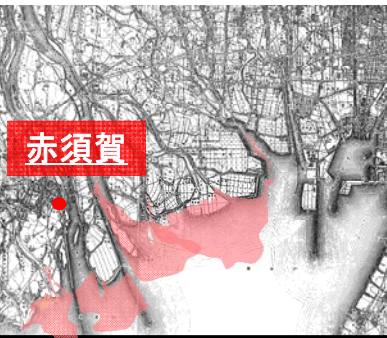
赤須賀地区の概要

赤須賀は三重県北部の桑名市を流れる、木曾三川の河口域に位置しています。

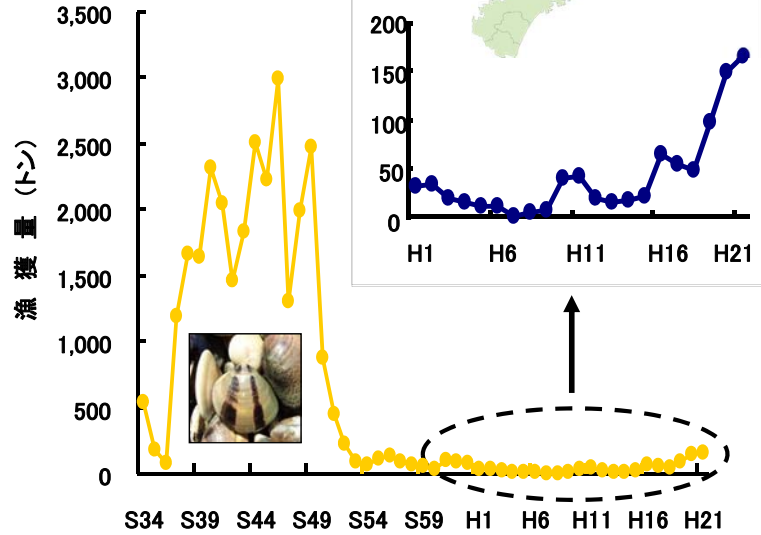
河口域では、一年を通してハマグリ、シジミ、アサリ漁が行われ、冬場には黒ノリ養殖やシラウオ漁も行われています。

高度成長期以前は、伊勢湾奥の木曾三川の河口部に、広大な干潟が広がっていましたが、高度成長期以降、埋め立てや、地下水のくみ上げによる地盤沈下などにより、ほとんどの干潟が喪失しました。

明治40年頃



平成6年頃



干潟喪失に伴い、ハマグリなどの生息場所が失われ、昭和40年代に3,000トン以上あった水揚げは、50年代頃から急激に落ち込み、平成7年には0.8トンまで減少しました。

干潟喪失による漁獲量の減少や、資源の維持への取り組みの中で、環境の充実の必要性を痛感していた漁業者の熱意によって、長良川河口堰の建設の際に出た浚渫土砂を利用して、平成5年及び6年に河口の2カ所に、計40ヘクタールの人工干潟が造成され、現在に至っています。

赤須賀漁協青壮年部研究会の概要

【設立】 昭和51年

【構成員】 30名（漁業者29名、漁業者以外1名）

【会員の条件】 赤須賀漁協の組合員で、漁業の継続・発展のために、誠意をもって取り組める者

【活動のモットー】

①将来にわたり漁業を営んでいけるよう、それぞれが自覚を持って取り組むこと。

②環境保全の必要性、自然の恵みの素晴らしさを広く知ってもらい、市民との絆を深めること。

【活動】 活動項目及びスケジュールは、以下の通り。

	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
稚ハマグリ放流							●				
流域における植林							●				●
浮遊・堆積物の除去		●			●						
モニタリング		●	----->				●	----->			
教育の場の提供			●						▶		
食文化継承			●						▶		

H26年度の活動の様子

廃プラスチック、ロープ、木材等のゴミを53平方メートル分を処理



社会科見学や食文化継承で、10校以上（約千人）の子どもを受入



植樹やモニタリング（貝類の殻長や干潟の粒度組成等）を実施

